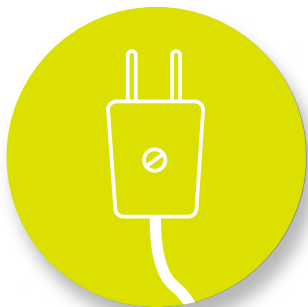
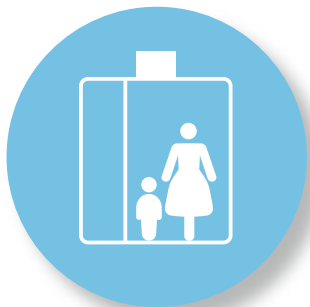
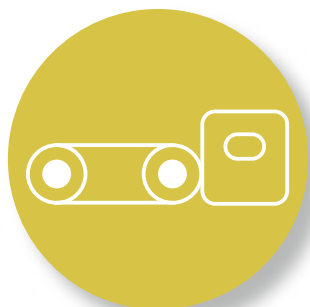
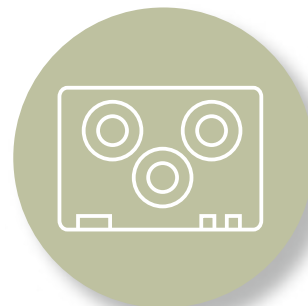
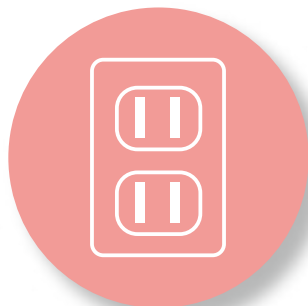
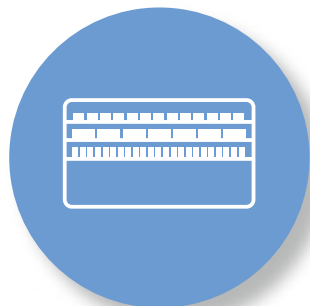
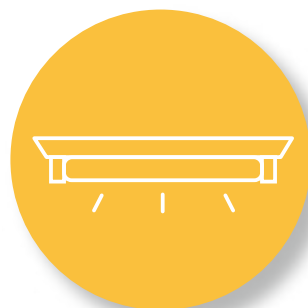


オフィスビルにおける 節電方法のご紹介



ともに輝く明日のために。
Light up your future.

ほくてん

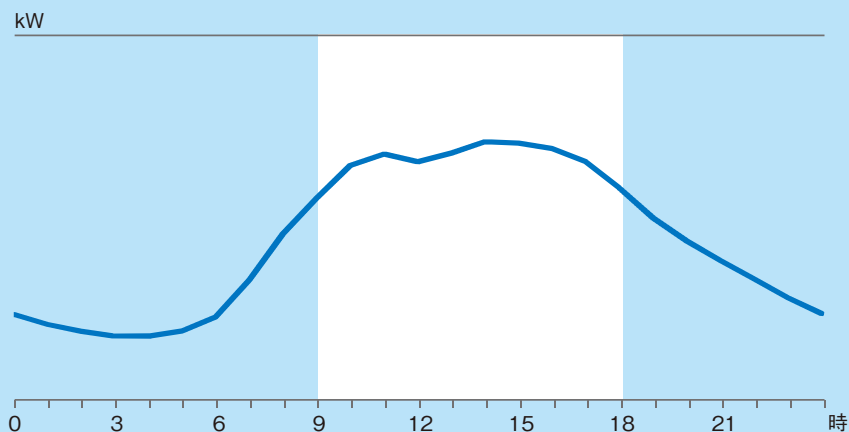
オフィスビルにおける節電ポイントのご紹介

オフィスビルにおいては、**空調・照明・OA機器**の節電が非常に効果的なため、ぜひご協力ください。

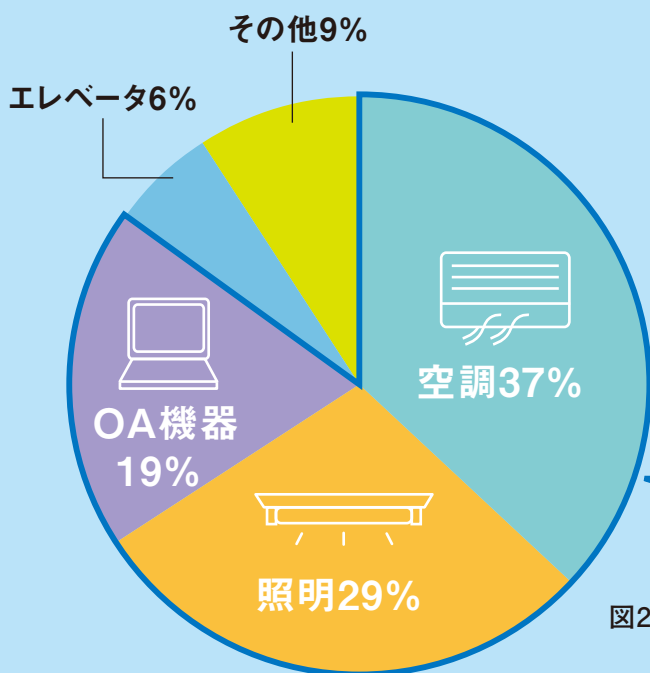
1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

・平均的なオフィスビルにおいては、日中(9時~18時)に高い電力消費が続きます。

図1: オフィスビル(事例)における電力需要カーブのイメージ



出典: 資源エネルギー庁推計



電力消費の内訳

(夏期のピーク時断面(例))

- ・電力消費のうち、空調用電力が約37%、照明及びOA機器(パソコン、コピー機等)が約48%を占めます。
- ・これらを合わせると電力消費の約85%を占めることとなります。

空調、照明、OA機器で
約**85%**

図2: 一般的なオフィスビルにおける用途別電力消費比率

出典: 資源エネルギー庁推計

夏の節電チェックシート

建物全体に対する
節電効果

チェック

電力消費の多い機器の節電にご協力をお願いします。			
照明	・執務エリアの照明を半分程度間引きする。	15%	
	・使用していないエリア(会議室、廊下等)は消灯を徹底する。	4%	
空調	・執務室の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	3% (+2℃の場合)	
	・使用していないエリアは空調を停止する。	1%	
	・室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	4%	
	・日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。	2%	
	・冷凍機の冷水出口温度を高めめに設定し、ターボ冷凍機、ヒートポンプ等の動力を削減する(セントラル式空調の場合)。	1%	
OA機器	・長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	3%	

メンテナンスや日々の節電にもご協力をお願いします。			
照明	・昼休みなどは完全消灯を心掛ける。		
	・従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯又は直管形LED照明に交換した場合、約40%消費電力削減。)		
空調	・フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		
	・電気室、サーバー室の空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。		
	・室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		
コンセント 動力	・電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		
	・自動販売機の管理者の協力の下、適切な温度設定等を行う。		
その他	・デマンド監視制御装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		
	・コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		
	・需給調整契約(料金インセンティブ)に基づくピーク調整、自家用発電機の活用等。		

従業員やテナントへの節電の啓発も大事です。			
節電啓発	・ビル全体の節電目標と具体的アクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。		
	・節電担当を決め、責任者(ビルオーナー・部門長)と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		
	・従業員やテナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		

合 計			
		%	

ご注意

- ・記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。
- ・空調については電気式空調を想定しています。
- ・一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。
- ・方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。
- ・節電を意識しすぎると、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。



オフィスビルにおける節電ポイントのご紹介

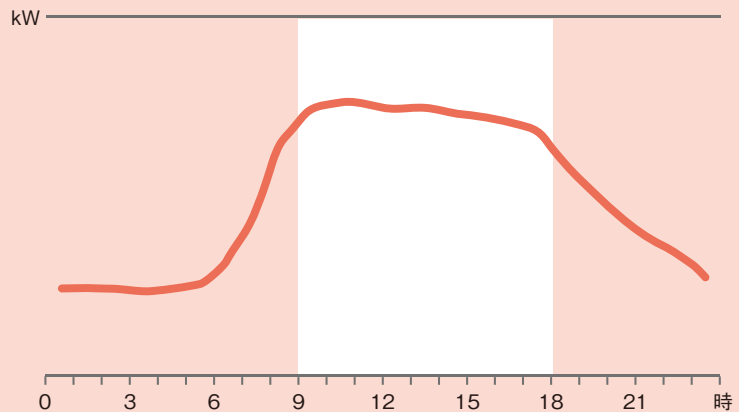
オフィスビルにおいては、**照明・OA機器**の節電が非常に効果的なため、ぜひご協力ください。

※下記は、全国平均の電力消費となっています。
電気式の暖房機器をご使用のお客さまにおかれましては、**暖房**の節電も効果的となります。

1日の電気の使われ方 (冬期のピーク日)

- 平均的なオフィスビルにおいては、日中(9時~18時)に高い電力消費が続きます。

図1: オフィスビル(事例)における電力需要カーブのイメージ



出典: 資源エネルギー庁推計

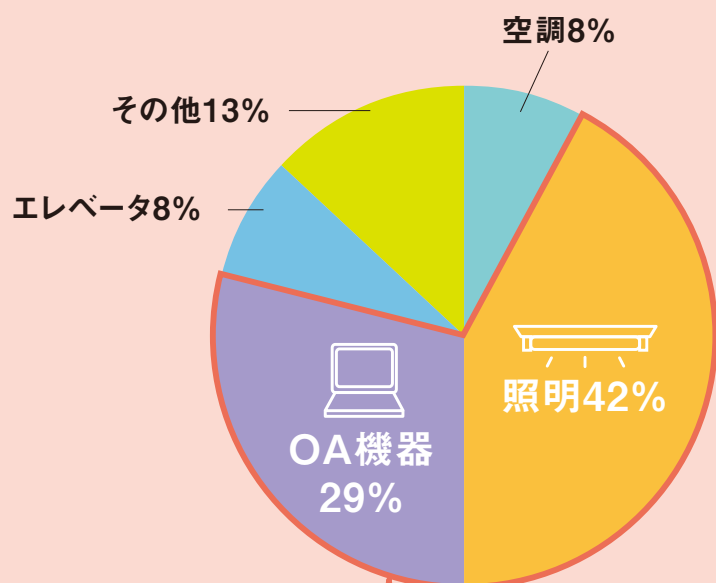
電力消費の内訳 (冬期のピーク時断面(例))

- 非電気式空調の場合、電力消費のうち、照明が約42%、OA機器(パソコン、コピー機等)が約29%を占めます。
- これらを合わせると電力消費の約71%を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

※電気式空調の場合は、空調への節電対策も大きな効果となります。

※補助的に使用する暖房や、凍結防止等に電気ヒーターを利用されている場合は、可能な範囲で使用をお控えいただくと、節電効果が期待できます。

図2: 一般的なオフィスビルにおける用途別電力消費比率





照明、OA機器で約71%

冬の節電チェックシート






建物全体に
対する
節電効果

チェック


3つの基本アクションをお願いします。

 照明	・執務エリアの照明を半分程度間引きする。	16%	<input type="checkbox"/>
	・使用していないエリア(会議室、廊下等)は消灯を徹底する。	5%	<input type="checkbox"/>
 OA機器	・長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	5%	<input type="checkbox"/>

メンテナンスや日々の節電努力もお願いします。

 照明	・昼休みなどは完全消灯を心掛ける。	<input type="checkbox"/>
	・従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯又は直管形LED照明に交換した場合、約40%消費電力削減。)	<input type="checkbox"/>
 コンセント 動力	・ハロゲンヒーター等の暖房機器を個人で使用しない。	<input type="checkbox"/>
	・温水洗浄便座は保温・温水の温度設定を下げ、不使用時はふたを閉める。	<input type="checkbox"/>
	・電気式給湯機、給茶器、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。	<input type="checkbox"/>
	・自動販売機の管理者の協力の下、適切な温度設定等を行う。	<input type="checkbox"/>
 空調	・ロードヒーティングやルーフヒーティング等の融雪用機器は積雪状況に応じて手動による制御を行う等により、可能な限り不要な運転を抑制する。	<input type="checkbox"/>
	・テナントは個別の空調のスイッチを切り、ビルオーナーはビル全体が適切な温度になるように調整を行うなど、適切な温度管理を行う。	<input type="checkbox"/>
	・使用していないエリアは空調を停止する。	<input type="checkbox"/>
	・室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	<input type="checkbox"/>
	・夕方以降はブラインド、カーテンを閉め、暖気を逃がさないようにする。	<input type="checkbox"/>
	・熱源機(ガス・油熱源は除く)の温水出口温度を低めに設定し、熱源機ヒートポンプ等の動力を削減する。	<input type="checkbox"/>
	・空調機の一斉の起動を避ける。(運転時間前倒し、フロアごとの時間調整等)	<input type="checkbox"/>
	・フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。	<input type="checkbox"/>
 その他	・電気室、サーバー室等で冷房を使っている場合には、可能な限り冷房を使わずに外気を取り入れる。 または、空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。	<input type="checkbox"/>
	・暖房と冷房の同時使用による室内混合を避ける。	<input type="checkbox"/>
	・電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。	<input type="checkbox"/>
 その他	・デマンド監視制御装置を導入し、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。	<input type="checkbox"/>
	・コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。	<input type="checkbox"/>
	・需給調整契約(料金インセンティブ)に基づくピーク調整、自家発電機の活用等。	<input type="checkbox"/>

従業員やテナントへの節電の啓発も重要です。

 節電啓発	・ビル全体の節電目標と具体的アクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。	<input type="checkbox"/>
	・節電担当者を決め、責任者(ビルオーナー・部門長)と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。	<input type="checkbox"/>
	・従業員やテナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。	<input type="checkbox"/>

合計

%

ご注意

- ・記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。
- ・非電気式空調における節電効果は僅かですが、適切な稼働抑制は使用燃料等の省エネに繋がります。
- ・一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。
- ・方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。
- ・節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。

「北海道エリアのでんき予報」のお知らせ

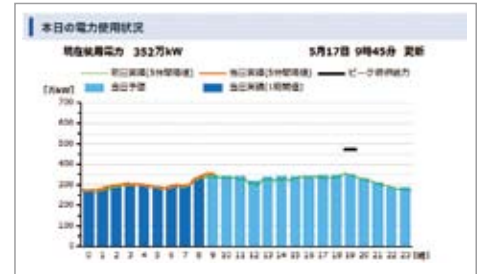
ほくでんホームページの「北海道エリアのでんき予報」では、ピーク時供給力や最大需要予測等の需給状況をお知らせしています。節電にご協力いただく際の参考として、ご活用ください。(翌日の予報は毎日17時頃に公表しております。)

■ほくでんホームページ「北海道エリアのでんき予報」(イメージ)



ピーク時予想使用率の色について

緑 色:安定的 (90%未満)
 黄 色:やや厳しい (90%以上~95%未満)
 濃い黄色:厳しい (95%以上~97%未満)
 赤 色:非常に厳しい(97%以上)



節電に関するお問い合わせ

事業所名	電話番号	事業所名	電話番号
旭川支店 お客さまサービスグループ	0120-060-124	小樽支店 お客さまサービスグループ	0120-060-591
稚内ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-135	余市ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-593
浜頓別ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-140	岩内ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-596
名寄ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-167	倶知安ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-599
留萌ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-174		
深川ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-192	釧路支店 お客さまサービスグループ	0120-060-669
富良野ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-195	中標津ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-674
		弟子屈ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-684
北見支店 お客さまサービスグループ	0120-060-219	根室ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-695
紋別ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-229		
遠軽ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-237	帯広支店 お客さまサービスグループ	0120-060-732
網走ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-239		
		室蘭支店 お客さまサービスグループ	0120-060-813
札幌支店 お客さまサービスグループ	0120-060-327		
札幌北ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-328	苫小牧支店 お客さまサービスグループ	0120-060-852
札幌西ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-329	富川ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-853
札幌東ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-339	静内ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-854
札幌南ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-342	浦河ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-856
千歳ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-348		
		函館支店 お客さまサービスグループ	0120-060-912
岩見沢支店 お客さまサービスグループ	0120-060-408	八雲ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-913
滝川ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-409	江差ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-914
栗山ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-412	福島ネットワークセンター お客さまサービス課	0120-060-915

受付時間 平日 / 9:00~17:00 (土・日・祝日を除く)

番号をよくお確かめのうえ、お掛け間違いのないようお願いいたします。

ともに輝く明日のために。
 Light up your future.

